いやさか

24号

日本ボーイスカウト
日野第2団・第5団
1982・7・18発行

神さまって、いいですね！

高橋ＣＢＳ育成会長　Ｊ．Ｃ．ロワゼール

月曜日の朝でした。昨日から来ていた寝台列車がとうとう終点、青森まであと三十分ほど「あさむしＬという所を走っていました。すばらしい朝でした。海岸すれすれを通っている列車の窓から、静かな海のちらちらと光る波が十二時間をうわまわる心地悪い寝台車の旅のつかれを忘れさせてくれます。

「きれいですね！　ママ。きれいですね！」と何かいの席に、服と顔のそろっていた双子のぼうやがはしゃいでいました。

「きれいですね！　ママ　きれいですね！ねえ、ママ、どうして、こんなにきれいですか？　ねえ、ママ？－あ、見て、あそこに島がある・あそこ、白い鳥　大きい！　きれい－ねえ、ママ　どうして？」

お母さんは、静かに、しかもしっかりと答えました。

「神さまがこんなにきれいにつくってくださったからですよ！」

ぼうやたちが声がそろえて

「神さまっていいですね！」

この会話を聞いて、わたしは列車の窓からながれてくる景色を忘れ、思わず目をとじました。

「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵のあるもの、かしこいものにはかくして、そぼくな人にお示しになりました」

キリストの祈りを思い出しながら、心のなかですがすがしい朝の空気がながれてくるようでした。そして、祈りました。

「天の父よ、このおさない子たちも、そのお母さんも、いつまでも、あなたを見る清い心があり、人びとの欲とごうまん、無れんで、盲人にならないように……」

笑するスカウトのみなさん、楽しみにして

いる夏のキャンプに、わたしはまず望んでいることは一つだけです。この大自然のなかで、キャンプを楽しみ、仲間スカウトといっしょにつくしてやりながら、心をひろくひらき、神さまのすばらしさを見いだしたい。

「命ある、すべてのものに、神さまは生きている。

ひろい、ひろい海、

高い、高い山、

輝く日

すべて神さまのようだ」

「神さまありがとう、神さまありがとう」

このように祈りたい。

「神さまを信じない人は、ほんとうにかわいそうです。」と、ついこの前、一人のカブスカウトはいいました。

この夏キャンプで、大自然をよく観察をし、これをつくってくださった神さまのすばらしさを思い出し、見つめたい。

――山梨県三富村で行われる
夏のキャンプの紹介――

日野二団CS一隊隊長　猪股　末男
日野二団CS二隊隊長　中嶋　敞
日野五団CS隊隊長　市之瀬辰雄

奥秩父の峰々に包まれた三富村では、中央道を勝沼ICで出て、国道一40号線を笛吹川の上流に向かってさかのぼると広瀬ダムの手前に、円川（えんがわ）という地名を見ることができます。このあたりの山ぎわに新しく作られたバイパス道路から下を眺めると、笛吹川と旧道の間に沿って細長くのびる集落を見ることができます。この集落の中に今回泊まるいさみ、けやき、ゆうこう荘などの宿舎があります。

三富村の歴史は古く、笛吹川や武田の金鉱それにまつわる金の鳥の行方やカミナリの落ちない村など、数多くの昔ばなしがあります。これらの伝説をスカウト達がキャンプ生活を

通して、村の人々との交流の中から聞き出してほしいものです。

昔話の出だしを紹介しておきましょう。続きは、キャンプから帰って来たスカウト達からお聞きください。

今から六百年前、三富村、芥沢という所に、里の人々から隠れるようにして住んでいる親子がありました。若者の名は、藤原の権三郎という名まえで南北朝の動乱で鎌倉から逃れて甲斐の国に入り、山深い三富村に身を隠していたのでした。権三郎は、横笛が大変上手で、横笛を奏で母の慰遊を慰めておりました。笛吹川の伝説は、このような出だしで始まります。

また、笛吹川の上流には、武田家の金鉱の伝説をもつ広瀬千軒と言われる繁栄を秘めた広瀬集落がありました。この集落は、五、六年前に作られた広瀬ダムによって今では湖底に沈んでしまい、集落の名前が残っています。ダムのさらに上流には、渓流美で有名な西沢や東沢が、水のベールを作って、スカウト達を待っています。ここには金の鉱脈の行方を探る手がかりがあると言われています。

私達は数多くの伝説と美しい自然の中に人情味あふれる人々が住んでいるこの村を素材にスカウト達の心に残る楽しいキャンプ生活をめざして、プログラムの準備を進めています。

それでは、プログラムの一部をご紹介しておきましょう。

奥秩父連山の一つである国師岳あるいは甲武信岳から流れだした水が東沢や西沢で作る連続する滝あるいは水の浸食によって作られた横穴などにふれながらハイキングを楽しみます。

キャンプ地の東南に、サンショウ魚のいる沢があります。たぶんハコネサンショウ魚かヒダサンショウ魚だと思います。川遊びは、雷笹川でやりたいと考えております。ここでは、バーベキューも計画しています。また、周

辺探索のテーマは、先にお話をした伝説や三富村の人々の生活を知ることのできるものを考えています。

キャンプでの大切な行事の一つであるミサには、スカウト達が三富村の自然の中でその偉大さを感じ、積極的に参加できるようなプログラムを準備して、神父様をお迎えしたいと思っています。

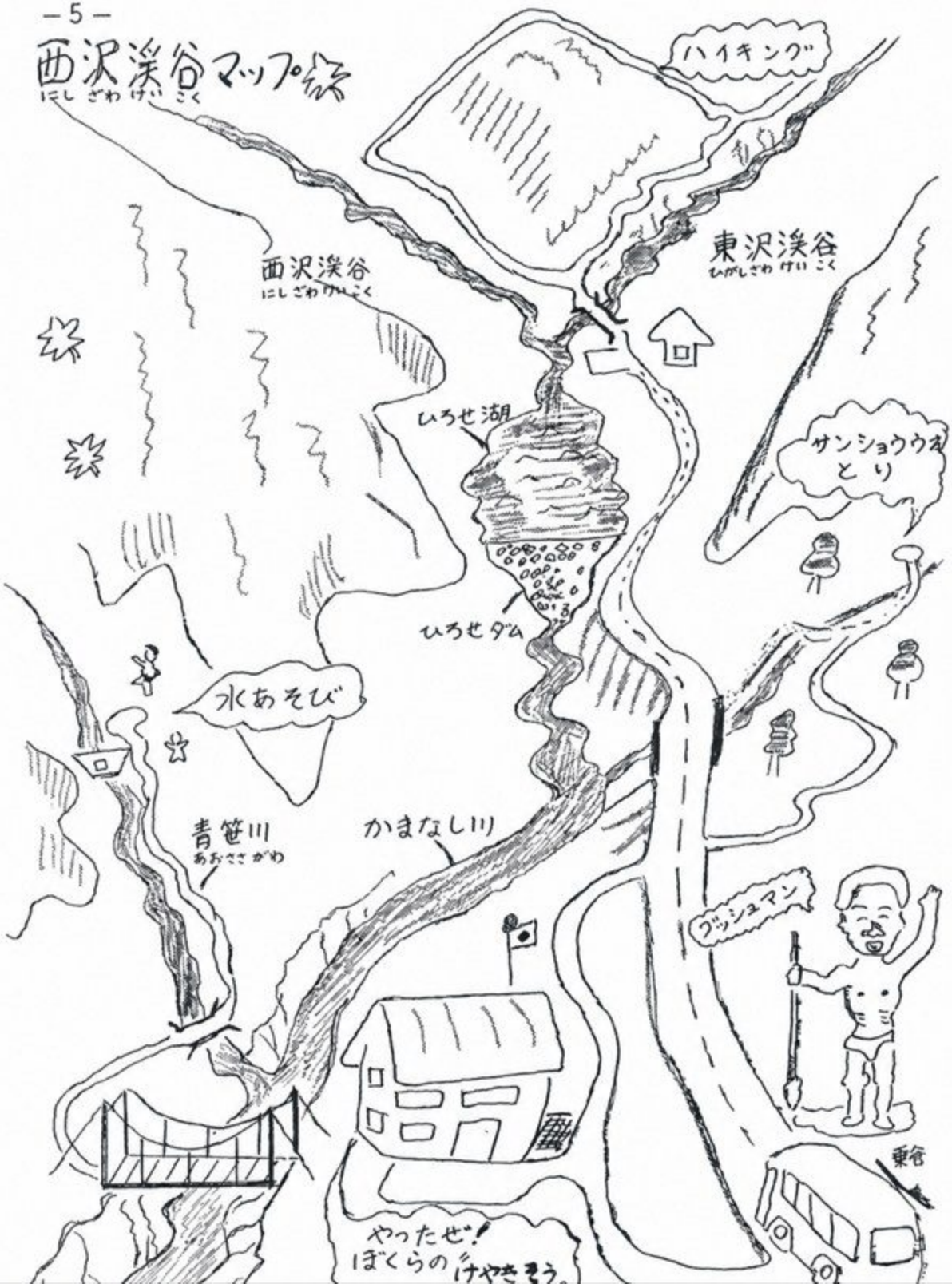
このほかに、いも堀や花火大会なども計画していますが、これらの現地での準備は全て団委員の方々のお力をお借りして行なわれるものです。今年もまた団委員長をはじめ、野営行事担当の八島さん、鈴木さん、大木さんのお世話になると思いますが、よろしくお願いいたします。

さて、ご両親の方々にお願いがあります。ご存知のようにカビンプは、一組が六ＳＣ人のスカウトの雄帯のもとに、デンマザーの助けを借りながら進められるもので、学校や子供会などには見られない独特の組織です。この組織が一人の欠席者もなく、全員の協力で力強く機能して、我々の準備したプログラムに、うまく笑ってくれれば今年の夏のキャンプは大成功間違いなしでしょう。

どうかキャンプが近づいてまいりましたら、スカウト達に規則正しい生活をさせ、身体に故障のないよう元気にキャンプに参加できますようご配慮くださいますようお願い致します。

我々は、スカウト達がこのキャンプ生活の中から自分達をとりまく環境に、積極的に働きかけ、知識をつみあげ、明日へ向かって進んで行くエネルギーを発芽させてくれるよう協力を惜しまないつもりです。

西沢渓谷マップ


ハイキング
西沢渓谷
東沢渓谷
ひろせ湖
サンショウウオとり
ひろせダム
水あそび
青笹川
かまなし川
ブッシュマン
やったぜ！ぼくらのけやきそう。

8NJ参加にあたって

日野五団BS隊長　金子　哲也

8NJ：第八回日本ジャンボリーが八月二日から六日まで、宮城県白石市の南蔵王山麓で開催される。これには、日野二団、五団からも東連派遣隊の南多摩地区の一員として、七名と八名が選ばれ参加することになった。

ジャンボリーとは、スカウトの祭典であって四年に一回、全国のスカウトが一か所に集い、一週間の野営絵巻を繰広げる。スカウト祭りであるジャンボリーへの参加は、スカウトにとってはあこがれであり、よろこびでもある。参加したくとも、参加できぬボーイが多いことを考えると、一員として選ばれたことは幸いと思わねばならない。南多摩地区よりニ隊、七十八名の構成で東京連盟として集約され、七十五隊、三百名となる。全国よりの参加者は、三万余、外国からの参加スカウトも多い。そして一夜で南蔵王山麓にはテント村ができる。これは壮観なものである。

期間中のボーイの行動は、友情ゲームや国際友情、自然探求等の日連での行事に自由参加し、パイオニア章の獲得を目指して友情の輪を広げる。おおいに羽根を広げ、全国から来た多くのスカウトと友達になって、広い社会があること、日本人としての素晴らしい仲間が多くいること、私達を取り巻く多くの人人の一人一人が持てる力を持ちよって奉仕し、助け合うことによって築かれる社会の如何にすばらしい人間関係かを楽しみの中で味わってきてほしいものです。勉強という言葉の陰にかくされた狭い人間の心を少し開いてみるよい機会だと思います。そして、忘れてならないことは、〝平和〟であるから…ということ、戦争というものは、人間の命をうばい、心をうばいとってしまうものです。

〈参加者〉

リーダー　金子哲也（第二隊　副長）、
遠藤正和（第二隊　副長）

スカウト　日野二団Ⅱ渡辺昭博　山手治
上羽紀生　竹井淳　大場一之
稲荷源太　仁賀田宏
日野五団Ⅱ桑名秀明　中村肇
岩本典雄　森克彦　木全宏幸
平岡竜石　高崎正史　志村均

8NJ準備キャンプに参加して

日野二団BS隊付　竹井　淳

今年の三月第八回日本ジャンボリー（8NJ）への参加が決まり、ぼくは日野二団の代表としてジャンボリーに出られることになった。南多摩地区は多摩、稲城が第一隊、日野が第二隊になり、第二隊は四班に分かれ、そのうち三班の班長が日野二団でした。そしてぼくもその一人でした。

第一隊と第二隊で、三月二十六日から二泊三日で準備キャンプをすることになりました。

三月二十六日朝、一台のバスに二隊が乗り、ボーイスカウト日本連盟山中野営場へ向いました。すぎごろ現地に到着。設営にとりかかせてから小雪の降る中設営。こんへんだから人個人の属する団によって一つのことをするにも、種々なちがいがでてきてとてもいい勉強になりました。あそこの班は班員の使い方が上手だとか、テントのはり方があそこの団とうちの団ではすいぶんちがうなどです。

第一隊というのはとてもきびしく、リーターたちがスカウトをどんどん先へひっぱっていこうとするので、とてもきびしくしています。

しかし、それではスカウト自身からなにかやろうとするよゆうがないので、「ぼくらについていけそうもないなァ」と感じました。

二日目の朝、ぼくらの班が一ぺんに二つの賞をもらいました。それは、三日間で一番うれしいことでした。二日目、三日目とどうにかうまく終わらせたときに感じたことなのですが、このキャンプが始まる前は全々知らなかった人なのに　三日間も生活すると　にく

も仲のよい友達になれました。これは準備キャンプでは二番目にうれしいことでした。

8NJ参加にあたって

日野五団BS隊ワイルドボア班　中村　肇

8NJ・ジャンボリーにボーイスカウトの現役で参加できるなんて幸運だ。

当たらない人はリーダーになっても参加できないのに。

南多摩地区のジャンボリー派遣隊結隊式の時、何人も貧血で倒れたことにはショックだった。あんな場面をジャンボリーではつくってはいけない。テストだ、勉強だなどと言っていないで、ハンドボール等球技や、多田派遣団長のように水泳でもきたえれば良いと思った。

隊からも地区からもほんの数名しか選ばれないのだから自覚をもって気をひきしめよう。

「日野二、五団は少しだらしがない」という言葉を耳にした。「やるときにやればいい」という隊長の意見に僕も賛成だ。しかしやっていない場合が多いと思う。班長としてまず班から厳しくやっていこうとつくづく思った。

こうやって書いていても、頭にあるのは期待と不安だけだ。

蔵王の白石。大自然の中でキャンプ・ジャンボリーができることを感謝しないといけない。

その世話をしてくれる人たち全員の期待をうらぎらないように、とことんがんばりたいと思う。

五十七年度夏季キャンプ。

日野二団シニア隊副長　石塚　俊彦

五十七年度シニア隊は、スカウト数が大幅に増えたことによって、夏季訓走とBS隊キャンプ。奉仕などを行います。

従走は南アルプスの早川尾根から甲斐駒まで、八月一日より三泊四日の日程で行う予定でいます。広大な自然の中での訓走は高校時代の大きな思い出になります。また歩くだけのキャンプではなく、個人の目的を持って行うため、山の中でディスカッションをやって、個人の理解を深めるのが日程の中にはいっていきます。

また、八月中頃にBSキャンプに三人ほど参加して、リーダーシップの勉強をしてくる予定です。

このようにシニア隊は今夏も積力的に行動をしていく予定です。

五十七年度夏季キャンプ。

（記録　[illegible]）

五十七年度夏季キャンプの説明が、新隊CBS育成会定例総会のあと、カブ隊、ボーイ隊に分かれて行われました。

一、カブ隊

(1) キャンプ期間　五十七年七月三十日～八月二日（三泊四日）

(2) キャンプ地　山梨県塩山市三富村天科けやき荘（斉藤宣雄）
電話〇五五三三九－二六三五

(3) 集合　七月三十日（金）午前六時　教会の下の駐車場
解散　八月二日（月）午後五時　教会の下の駐車場

(4) 予算書（日野二団、五団カブ隊合同）
別記のような予算で、二団、五団のカブ隊の合同キャンプを行うが　追加負担として一人一、〇〇〇円を徴収する。

〈夏季ＣＳ合同キャンプ予算書〉

〔収入の部〕		
積立金	18,000（56.9～57.8）×38名	1,494,000
団よりの補助金	1隊 50,000×3	150,000
リーダー参加費用	1人 3,000×8名	24,000
ＣＳ隊員自担金	1人 1,000×83名	83,000
		1,751,000
〔支出の部〕		
宿泊代	3,300×3×120名	1,188,000
交通費	大型バス 150,000×2台	300,000
自家用車	6,000×3台	18,000
バス代（宿～西沢入口）	大人 520×20人＝10,400 子供 260×33人＝21,580	31,980
下見費用	6,000×6台 36,000 その他 4,000	40,000
花火代		25,000
備品代（バーベキュー，プログラム費用）		50,000
おやつ代	100×3×120名	36,000
おみやげ代（宿へ）	5,000×4軒	20,000
予備費		62,020
		1,751,000

二．ボーイ隊

(1) キャンプ期間　五十七年八月十日（火）～十四日（土）　四泊五日

(2) キャンプ地　長野県南佐久郡川上村秩山

(3) 現地までの輸送方法

往復大型バスを使用するが、現地まではバスが入れないため一時間位歩く。

(4) 実施体制

二団、五団両隊長とも勤務の都合上、全日程参加できないため（十二日より参加）、若いリーター主体で行うことになる。団より団委員四名の参加を予定しているが、現在確実に行ける人は一名だけなので、父兄の参加協力を小泉団委員長よりお願いする。（参加申し出は団委員長まで）

(5) プログラム

まだ作成していないので、決定次第スカウトに二部渡すことにする。一部は家

庭におくこと。持ち物などはプログラムで知らせる。

(6) 事前の連絡方法

キャンプにかかわることについて事前に連絡をする場合は、次のリーダーにすること。

日野二団BS隊　小沼副長
日野五団BS隊　増田副長

三、第八回日本ジャンボリー

(1) 期間　五十七年八月二日（月）～六日（金）

(2) 場所　宮城県白石市福岡蔵王白萩南蔵王山麓

(3) 集合　七月三十一日（土）午後九時三十分　日野駅
解散　八月七日（土）午後十時　日野駅

(4) 参加費用の自己負担額

スカウト一人の参加費用四二、〇〇〇円のうち、一五、〇〇〇円を自己負担してもらうこと。このうち、一〇、〇〇〇円は山中湖キャンプのときに集めているので、残り五、〇〇〇円を払込んでもらうこと。払込み方法については後日連絡をする。

五十七年度仮舎営行われる

――日野二団、五団カブ隊――

夏季キャンプに向けての訓練の一環として、カブ隊の仮舎営が次のような日程で行われました。スカウト達は元気に仮舎営を終わり、組織づくりなど本番の夏季キャンプの準備を進めています。

一、仮舎営の日時

第一回　五月八日（土）～九日（日）
日野二団カブ隊第一隊

第二回　五月十五日（土）～十六日（日）
日野五団カブ隊

第三回　五月二十二日（土）～二十三日（日）
日野二団カブ隊第二隊

二、プログラムの概要

〈第一日〉

一五：三〇～四五　集合　点呼
一五：四五～一六：〇〇　入宮式、セレモニー
一六：一五～一七：〇〇　マキひろい
　室内片付け、食事手伝い
一七：〇〇～一〇　部屋割り、荷物整理
一七：一〇～一八：〇〇　ゲーム、ソング、
　ファイヤー練習
一八：〇〇～四五　組活：スタンツ練習
一八：四五～一九：三〇　食事片付け
一九：四〇～二〇：五〇　キャンプファイヤー
二一：〇〇～二一：二〇　就寝準備
二一：〇〇～一〇　組長会議、今日の反省
　と注意、明日の連絡事項
二一：四〇　消灯

〈第二日〉

六：〇〇～三〇　起床、洗面、着替
六：三〇～四五　ラジオ体操　祈り
六：四五～七：一五　荷物整理、部屋の清掃、整理
七：一五～三〇　点検（室内、服装、身体）
七：三〇～八：二〇　食事と片付け
八：三〇～九：五〇　陸ハイク
九：五〇～一〇：〇〇　閉宮式
一〇：〇〇～　日曜日のプログラムに参加

かりキャンプ。

　日野二団CS一隊一組　萩原　有記

ぼくは、かりキャンプのとき、四組の石川くんと行きました。
それで、ぼくと石川くんは、どこかしかうごう場所かわからなかったので、くま広場としか広場に行ってもだれもいないので、スカウトハウス前に行ったら、一隊の人がいたのでほっとした。そこで田場リーダーがきて、にもつをはこばされてしまいました。
　夕めしはカレーライスでした。そのカレーライスがとてもおいしかったのでおかわりした。

それからキャンプファイヤーをして　ぼくたちの組のげきもおもしろいし、二組のげきもおもしろいし、三組のげきもおもしろいし、四組のげきもおもしろかった。

それで、ねるまえにトイレにいったり、そスラであそんでいるときに、組長がいぎかからかえってきて組長がいいました。それが終わってデンチープがかいぎ中で電気をけしたらデンチープがぜんいんにいいました。それでかいちゅうでんとうをつけたら、あしたデンチープにいえといいました。それで、みんなねているのに、ぼくは、ぜんぜんねむれなかった。

でも、ちょっとはねむったけど、一時間ぐらいで起きて、そしておうっと起きていた。それで朝がきた。力にさされたのが九こあった。

それで、朝の食事はパンにハムにたまごなどがあった。

とてもおもしろいかりキャンプでした。

仮キャンプをやって

日野二団CS二隊二組　[illegible]

ぼくは仮キャンプをすると聞いて、寝袋一ねるからうれしかった。学校から帰って、わわてて着がえて、スカウトハウス前まで急いで歩いていった。荷物がそうとう重かった。あんまり急いでいたから、くつ下をまちがえた。ぼくははずかしかった。

デンマたちがカレーをいっしょうけんめい作っている間、ぼくたちはゲームとスタンツをみんなでそうだんして作った。ぼくはほとした。そのあと食事。組ごとに分れて食べた。はじめパクリと食べて、「あついしとさけんで、みんなにわらわれた。長谷川リーダーがキャンプファイヤーを作っている間、じゃんけんゲームをした。いよいよキャンプファイヤーに点火。組長がむこうからたいまつを持ってきて、みんなが見守る中、つけた。まわりはだんだんまっ暗になってきて、まわ

リがこわいかんじで中は楽しかった。みんなか作ったはちまきをしてインディアンみたいになっておどった。うまくなかったけれど、とってもおもしろかった。スタンツではぼくはいい役とわるい役をやった。まあまあだった。二組がーばんうまくやったと思った。

それからねるときがきた。スカウトハウスで新入隊員は、新しいねぶくろをもらってしいてねた。中はすごくきもちよかったけど、まわりがうるさくってなかなかねむれなかった。ギュウギュウにねてみんな苦しいとか何とか言っていた。かい中電灯を出してバクバクマンゲームもしていた。ぼくはおもしろくなってきてだんだんねむくなってねてしまった。

朝は、一ばんにおきた。リーダーがきてまだねむっていろとおこられた。三回ぐらいきた。六時に洗面、着がえて、ラジオ体そう。ねて肩がこったりしていたのが、気持ちよくなった。そのあと朝食、追せきラリーもした。仮キャンプは少しつかれたけれど楽しかった。

かりしゃえい

日野五団CS隊二組　雄井　信輝

仮しゃえいの前の日、考えた。いったい、どこでねるんだろう。スカウトハウスでねた。ねぶくろではじめてねた。あっくて、あっくて、「冬だったらいいのに」と思った。だから、なかなかねむれなかった。

岩本くんは、ぼくよりはやくぐっすりねていた。「さっさといにはやくならないかな」と思った。

デンチーフに五時三十分に起こされた。ほんとうは六時に起きるのに、五時三十分にまちがえて起こした。

にわとりが「こけこっこーし」と鳴いていた。はじめて朝ににわとりが鳴いたのを聞いた。

本に書いてあるとおりだった。
いい天気だった。
さつきさいもおもしろかった。
「カブにはいってよかった」と思った。

さつき祭のお手伝いをして

高陽CBS育成会員　八木沢晴子

去る五月十五日、十六日の二日間、さつき祭準備のお手伝いをさせていただいた。
やってみなければ分からないもので、今までにもずっとこのようなことをしてくださった方々があったということに、今さらながら感謝した次第である。
決してよいとはいえない条件の中で、体をあちこちぶっけながら準備を進めるのだが、その中で目覚しい働きをしてくださるのが、男性の団委員の方達である。そのとき、その場をきちんと把握して、必要なことをてきぱき、きびきびと処理していかれる様子には目を見張るばかりで、しまいにはうっとりしてしまう程だ。そのような中で、モタモタ、ここズブズブ、ベチャクチャと、私なんかには、こ、たのであるが、もちろん、女性でも数少なく、しかもにこやかに、さわやかなものもいて、ぜひあのようになりたいものだと思じ入った。
困った点は、まず、いろいろな場所、器具がほこりぼっく、不潔に見える点だ。これは仕方のないこととはいえ、こういう場合に一番気を使うことで、できればたっぷりの熱湯をざっとかけて消毒できればよいと思った。ところが、そのためには、たきぎ拾いから始めなければならないときているから時間がかかる。スカウティングのお手伝いというのは何から何まで野生的なので、感覚のズレが大きい。仕方がないから、切った野菜を入れるザルやボールは極力きれいに洗ってということになるのだが、さて、今度は水の出が悪い。何とか仕事に入って材料を切り始めると、台がガタガタ、グラグラ、入れ物が足りない。

後始末のときには洗剤が足りないなどの不都合がゾクゾク出てくる。そういうとき、固定観念でカチカチに固まった頭では何もできない。つとめて野性的に団りを見渡すと、問題は何とか解決する。ただ多くの食事をつくるだけなら、働く人の頭数がそろえればよい訳だが、ここではそれと共に知恵が必要なのである。けれど、毎年何回かくり返してやっていることにしては、データーが足りない面があるような気がする。材料の切り方や調味料の分量など、何でもないようなことで戸惑うことも多かった。

私の限られた数少ない経験でいうのは気がひけるが、カブのお手伝いはいつも楽しく時間が過ぎてしまう。そして、そのうしろに、多くの人の知恵とご苦労があるということを実感させていただいて、本当によい二日間だった。

中三スカウトの父母との話し合い

中三のボーイスカウトは、高校受験のための勉強とスカウト活動との両立に悩みをもっているので、リーダーと中三スカウトの父母との話し合いを、六月二十七日の夏季キャンプ説明会のあとにもちました。（以下必要メモ）

◇小泉団委員長：中三スカウトに対し団としては、高校受験のため頑張ってほしい。しかし、スカウト活動にもできるだけ参加して、無駄な時間を過ごさないようにすることが必要である旨を話された。

◇高橋道彦（シニアスカウト高橋淳二君の父親）：高校の教師の立場とスカウトの父親としての立場から、中三年代に対する社会教育面について体験したことをおりまぜて話をされたが、まとめとしては、受験とスカウト活動を両立させることは本人の気力と体力の問題であるとして話を結ばれた。

◇ロワゼール神父：ヘシニア上進前に退団す

るスカウトについて）シニアの冬季キャンプに参加することにより自信が生まれる。是非参加してほしい。そのうえで、スカウト本人に判断させても遅くはないことを話された。

◇渡辺ＳＳ隊長・受験もスカウト活動の一項目に取り上げられているので、心の支えとしてこれるときにはきてほしい。シニアでの活動体験は社会性を身につけるうえで必要なことを話された。

◇父母側：子供達は、家庭で無駄な時間を過ごしていることが多い。団として、上班・隊付スカウトに対し、積極的に活動参加を呼びかけてほしい。そのためのプログラムを考えてもらいたい旨の希望が出された。

これを受けて、小泉団委員長より今後団として検討することを約束された。

中三年代の悩みの多い心の不安定な少年達の生活面について、お互いに意見交換できたことは大変有意義でした。（日野二団ＢＳ隊長　川原　博）

五十七年度高幡CBS育成会
定例総会報告

五十七年度高幡CBS育成会定例総会が六月二十七日午後二時より光塩幼稚園講堂で開催され、五十六年度育成会行事報告及び決議が承認されました。

一．五十六年度高幡CBS育成会行事報告

例年と異った本年度の行事は二つあります。その一つは、カトリックボーイスカウトの第四回合同キャンボリーが八月七日から十一日まで長野県佐々市内山牧場で開かれ、二団、五団のボーイ隊が参加したことです。もう一つは、十一月八日のスカウト祭に七生福祉園の身障者十一名を招待したことです。スカウト祭に七生福祉園の人たちを招待することは、今後も続けていく方針です。

二．五十六年度高幡CBS育成会決算の承認

岩本会計担当委員より別記のような決算報があり、松丸泰子、八木沢晴子両会計監査委員より監査報告があった後、提案通り承認されました。

三．その他の報告

① 五十七年度カブ隊の夏季舎営と8NJの父母の見学について

カブ隊夏季舎営の父母の見学は、八月一日夜のキャンプファイヤーを中心にして、日帰りで募集しています。

第八回日本ジャンボリー（8NJ）の見学は、八月四日の大集会を中心に行い八月三日夜に高幡をバスで出発し、八月四日夜南蔵王を出発して、往復車中泊で募集しています。

申し込みは、本日中に行ってください。

② 日野高幡カトリック教会の御堂建設の献金について

日野高幡カトリック教会の御堂建設は六月二十日に地鎮祭が行われ、十一月末完成の予定で工事が始まりました。この

御堂建設について、教会側から建設資金の献金の要請がありました。ボーイスカウト日野二団、五団は日野高幡カトリック教会を母体として、カトリックボーイスカウトとして発隊した経違からも、よりどころとする教会発展のために献金の要請に協力していきたい。高幡CBS育成会としても、一口五〇〇〇円以上の献金のご協力をお願い致します。献金の口数金額は、教会備え付けの振込用紙で住友銀行高幡不動支店に振込むか、ロワゼール神父様に直接申し出てください。

③ スカウトハウスの建設について

日本基督教団高幡教会より六畳のプレハブハウス二棟を寄付していただいたので、現在のスカウトハウスの側に、シニア隊用、ガールスカウト用として建設を始めています。建設資もなく、育成会員の皆様の奉仕で建てたいので、協力を申請します。

④ 日野市BS・GS連合協議会の委員について

本年度は、日野二団、五団として九十五人、一〇八口の賛助会員の協力を得ました。今後は、育成会員以外の地域の方々にスカウト活動の理解を広め、賛助会員になっていただくように働きかけていきたい。

⑤ 夏季キャンプの積立金について

従来のキャンプ積立金（毎月、夏季キャンプ一五〇円、冬季キャンプ五〇円、計二〇〇円）を、五十七年度（四月一日）より育成会費とし、キャンプ費として別途会計とすることが二月二十七日の臨時総会で決定していますが、五十六年九月から五十七年三月までの積立金も五十七年度の育成会費として夏季キャンプの費用にあてたいので了承していただきたい

昭和56年度高幡CBS育成会決算書

収入の部		支出の部	
(1) 前年度より繰越金	289720円	(1) 日野2団運営費	1.006.956円
(2) 育成会費 200人×1000	2.001.000	(2) 日野5団 〃	790.026
(3) 入団金 20人×2.000	40.000	(3) 事務費(名簿作成代)	24.000
(4) 雑収入	130.819	(4) 備品費	0
		(5) 会議費	23.171
		(6) 雑費	185490
			2.029.643
			431.896
合計	2.461.539円	合計	2.461539円

昭和56年度日野2団決算書

収入の部		支出の部	
育成会より交付	1006.956円	プログラム援助費	344333円
		備品費	204560
		登録・保険料	151.910
		行事費	58.177
		上部団体費	90.550
		指導者品費	90.445
		事務費	24.131
		団委費	19.700
		慶弔費	5.000
		予備費	18.150
合計	1.006.956円	合計	1.006.956円

昭和56年度日野5団決算書

収入の部		支出の部	
育成会より交付	790026円	プログラム援助費	261840円
		備品費	151.360
		登録・保険料	117.160
		行事費	57.606
		上部団体費	87.800
		指導者品費	46.145
		事務費	24.265
		団委費	19.700
		慶弔費	6.000
		予備費	18.150
合計	790.026円	合計	790026円

高幡CBS育成会財務担当
岩本光雄

日野2団財務担当
浅井伸一

日野5団財務担当
服部康之

会計監査
八木沢晴子
松丸泰子

スカウト豆辞典

「富士スカウト」

およそ三年ぶりで発行された「いやさか」第二三号に「五十七年度の拡員」として、小泉団委員長は、「昭和六十年までにボーイスカウト最高章である富士スカウトを誕生させること」であるといわれています。

スカウト最高の富士スカウトになるためには、どうすればよいでしょうか。

それには「隼」スカウト章を取ってから六か月たっていなければならないこと、富士スカウト挑戦キャンプを修了することが必要です。

次に、シニア、スカウトとして集会や野外活動、自分の所属している団や隊にどのように奉仕するかを自分で企画、計画して団委員長や隊長の承認を得て、責任ある行動を積極的に行い、この計画の実施の実現をはかります。

このほかに、個人作業を自分で計画し、隊長の承認を得て、少くとも一か月以上にわたって、これを継続する個人プロジェクトを作製し、完結した結果、報告書を隊長に提出することになっています。

また、隼スカウト章取得のときの技能章のほかに基本的技能章二個、技術的技能章一個、その他社会、文化、スポーツの技能章のうちから選んで二個、合計五個の技能章を獲得すべきです。

日常生活において「日々の善行」「ちかい」「おきて」の実践に最善をつくします。家庭、学校、地域社会に対する義務を喜んで有能に果します。スカウティング、フォア、ボーイズを読んで自分の将来の方向づけと現在の立場について感想文を書き提出します。宗教章をとり、体力づくりに精を出し、模範的スカウトであるようにつとめます。

日野二、五団から富士スカウトの誕生を心から待ち望んでいます。

（日野五団団委員長　水上　留次郎）

団委員会報告（五十七年四月～七月）

◇三月二十八日　第一回団委員会
　団委員会には、各隊長に出席してもらうことにする。
◇四月三日　ボーイ隊上進着替いの式をお聖堂で行う。本年度上進者十八名
◇四月四日　カブ隊入隊式・ボーイ隊上進式を光塩山中のカブ広場で行う。本年度カブ隊入隊者二十九名
◇四月三～四日　日米フレンドシップパトロールリー大会が多摩弾薬庫跡で行う。ボーイスカウト四名とリーダー参加
◇四月四日　第二回団委員会
　隊長会議を二か月に一回開催することを決定。スカウトハウス内を整理する。
◇四月十日　日野市BS・GS連合協議会総会
◇四月二十四日　南多摩地区総会
◇五月十六日　さつき祭
　BSは設営と焼そばを担当。当日の団関係の食券売上げは一七八名
◇六月六日　第三回団委員会
①　夏季キャンプ日程確認。父兄の見学はカブ隊に限り、八月一日を中心に募集する。
②　育成会定例総会日程と報告事項確認
　夏季キャンプ説明会の後で、中三スカウトの父兄と懇談会を開催することを決定。
③　第八回日本ジャンボリー（8NJ）は七月三十一日出発、八月七日帰着。参加はスカウト十五名、リーダー三名。費用負担は、予備キャンプを含めてスカウト一名一五、〇〇〇円（一〇、〇〇〇円既納）を個人負担とし、日野市BS・GS連合協議会より一〇〇〇円補助があり、残り七〇〇〇円は団負担に決定。リーダーの負担は一〇、〇〇〇円は日野市BS・GS連合協議会の補助、残り一四、〇〇〇円は全額団負担に決定

㊾ 特別基金について　ガールスカウト
ケ基金の募集を停止しているので、これ
以上運用困難。解散の方向でガールと協
議する。

⑤ 教会建設について　個人の自由献金
で協力する。額は一口五〇〇〇円以上が望
ましい。地鎮祭は六月二十日午後一時よ
り。

⑥ 新スカウトハウス建設について　日
本基督教団高幡教会より不用のプレハブ
ハウス（六畳間）二棟を寄付して頂く。
ガールと協議して建てる。建設担当日
◎安藤、○大木、志村、山池、佐藤、鈴
木、八島の各団委員。

⑦ キャンプ積立金残金について　キャ
ンプ積立金は本年四月より育成会費とな
り、キャンプ費として支出されることに
なった。ついては、昨年九月～本年三月
までの積立金残金は、本年のキャンプ費
用にあてるためのものなので、これも会
費に繰入れて使用するのが妥当であると
の解釈を決定した。総会において予算を
得る予定。

⑧ 昨年度赤い羽根募金の還付金は
二三〇〇〇円

◇六月二十日　第四回団委員会

① スカウトハウス建設について　カブ父
兄の福岡氏に協力を依頼。ガールと協力
して建てる。一棟ずつ使用する。六月二
十日より作業開始。父兄の協力を募る。

② 高幡CBS育成会定例総会
議事次第確認。会計報告承認。会計監査
を当日までに終らす。（育成会は監査委
員、団は育成会委員が行う。）なお、昨
夏のCBSキャンプ不参加者の積立金返
却は病気、けがなどやむをえない者に限
った。

③ 団会議決定事項　電話連絡は、スカ
ウトは午後十時まで、リーダーは午後十
時三十分までとする。緊急の場合は除く

（注　日野二団カブ隊は午後八時三十分までと申し合わせた。）

④　駐車場について　教会建設に伴い、七月～十一月の間、杉本さんの駐車場を借りる。費用は教会と分担する。利用者はステッカーが必要、一回二〇〇円を負担する。（団委員、リーダーの費用は団で負担する。）

（日野五団　庶務担当　森　明彦）

編集後記

◇いよいよ、スカウト活動の一大イベントの夏季キャンプが始まります。今号は、キャンプについての内容を中心にのせました。

◇スカウトの皆さんは、プログラムも順調に進み、キャンプの準備もととのっていることでしょう。あとは、当日、皆元気に参加できるように、今日から病気やけがをしないように気をつけてください。

◇ご父兄の皆様も、スカウト全員が元気にキャンプに参加して日頃の訓練の成果も発揮できるように、健康に十分配慮してあげてください。

◇次号は、スカウト達の夏季キャンプの成果をご報告する予定です。

（いやさか担当　森、甲田、橋本）

仮舎営

（カブ隊
5/8 ～ 5/23）

◀朝食

▼キャンプファイアー